

マイ仙台暮らし 『仙台市探訪』

幹事 岡山 和裕（日本銀行仙台支店長）

週末の遠出と仙台市の観光地

週末の行動は人によって違うのは当然だと思うが、私の場合、どちらかと言うと、遠出することが多いので、他の皆さんよりも仙台市にいたことが少ないと思う。

もちろん、青葉城址、瑞鳳殿、大崎八幡宮、秋保温泉、作並温泉、定義さんなどには行っているのだが、他の地域ほどトリビア的な場所には行っていなかった。このため、自分で「仙台市のことを知らない仙台支店長です」と言っていたぐらいだ（笑）。

なので、仙台市で面白そうなところを回ることにした。

まずは「地底の森ミュージアム」に行ってみた。ここは、小学校を作ろうとして、土地を掘り起こしたら、次々に遺跡が出てきて、とうとう旧石器時代の地層まで掘り進んだらしい。そうしたところ、旧石器時代の森林や焚き火、鹿のフンの跡まで出てきたとのこと。森林跡を残すため、乾燥しないような加工もしているのだ。もちろん、この当時のライフスタイルは現代と全く違うものだが、人類の生活の痕跡をみることができ、何とも興味深い。



日本初の水力発電と三居沢電力所

そして、日本の水力発電発祥（1888年）の地が何と仙台市にあると聞いて、仙台平野にある「三居沢電力所（1910年～）」に行ってみた。

行く前に思った疑問は次のとおり。水力発電は水の高低差を利用して発電する訳だが、なぜ最初の水力発電所が高低差のできやすい山奥の河川ではなく、仙台平野に作る事ができたのか。この疑問は行ってみて氷解した。



というのも、仙台平野を流れている広瀬川は蛇行しているため、蛇行している間に高低差ができるのだ。すなわち、川の蛇行の間の高低差によって、「川からの取水口」から「水を落とす場所」まで水を引っ張ってくるトンネルを、その分短くできるのだ。うーん、何とも奥深いではないか。

また、その水力発電所のある場所に紡績工場があったので、水力発電所を作る必要性があったということらしい。

しかも、110年以上前にできた、この発電所は今でも発電しているのだ。何とも「長寿」発電所ではないか。

さらには、仙台市では1976年まで市電が走っていて、「仙台市電保存館」があると聞いたので、行ってみた。そうすると、かつて仙台市内を走っていた市電が3両保存されているほか、路線図や年表が展示されているのだ。



そして、日本銀行仙台支店がある仙台市青葉区の「芭蕉の辻」の交差点まで市電が走っていたらしいという話は聞いていたが、それが本当なのか、何年まで走っていたのかを確認してみた。そうすると、「芭蕉の辻」線という名前で1944年まで走っていたと書いてあるのだ。



日本銀行仙台支店が開設されたのが1941年だったので、開設から数年間は通勤でも使っていたのだろう。そして、ホームページに載せている開設当初の当店の写真には、しっかりと市電が映っている（笑）。

地元の歴史を再発見する楽しみ

こうした巡りを経ての感想。そこにはその時々々の生活や経済活動があり、今と風景が違う場合もあれば、同じ風景の場合もある。

皆さん、地元の「四次元体験」をしてみてくださいはいかがですか？